

日本精神保健看護学会

- The Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing -

ニュースレター 第11号

平成6年10月5日

事務局：

〒150 渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学内

(理事長：稲岡文昭)

TEL：03-3409-0875

FAX：03-3409-0589

日本精神保健看護学会報告

第4回日本精神保健看護学会学術集会が予定通り1994年7月2日と3日、日本赤十字看護大学で開催されました。学術集会の参加者は2日間で259名でした。

2日の午前中に研究活動委員会主催の研究助言には、事前の予定通り2名の方が相談にみえました。

学術集会に先立って開催されました総会は、出席者54名、委任状111名で会議が成立しました。提出されました2つの報告と2つの議案は、議長 林優子氏のもとで審議されまして、全て承認・可決されました。また、本年度は、役員改選の年度でありましたが、これも3名の選挙管理委員のお陰で厳正に選挙が実施されまして、その結果を委員長の藤野ヤヨイ氏より報告がなされ、承認されました。

学術集会は、小林信子氏の「精神病者の自己決定なしでは人権擁護は存在しない」という講演で始まりました。小林氏は、イギリスでの治療共同体の経験を述べられた後、精神病者はいかに自己決定の機会を奪われているか、を人権センターの活動の中から報告をされました。豊かな体験の中からの言葉は、共感を覚えることが多くあり質疑応答も活発になされました。

ワークショップは予定通り6つのテーマに分かれました。各テーマと参加者数は、「精神力動概念を用いた事例検討」29名、「体験グループ」16名、「リエゾン精神看護・学習会」30名、「地域リハビリテーション看護」33名、「再構成の方法～なぜ有効に活用されないか」20名、「臨床における看護研究の糸口」29名でした。

夕方の懇親会には、約60名の方達が出席されて、お互いの情報交換や意見交換がな

されまして盛会に終了いたしました。

2日目の一般演題は、19題が4会場で発表されました。各演題とも興味深く15分の討議時間もアツという間に過ぎてしまいました。

シンポジウムは、今学会のテーマである精神看護と患者の意思決定に則して、「患者の意思決定を支える看護とは一患者の自立・看護の自立を考える」という主題でした。4人のシンポジストは、急性期ケアの場から（伊藤文氏）、慢性期ケアの場から（宮崎弘光氏）、中間施設の場から（小松博子氏）、そして在宅ケアの場から（小林政子氏）がそれぞれ発言をされ、その後フロアとの活発な討論があって、二時間半の時間が瞬く間に過ぎてしまいました。

今回の学術集会では、様々な視点から患者の意思決定について討議・検討されました。頭でわかることを実践に適用するのは、これからの私たちひとりひとりに課せられた課題でしょう。

（文責：川野 雅資）

第4回学術集会を終えて

患者の意思を尊重することは至極当然のことではあるけれども、今までそれがなされてきたかと言えば、必ずしもそうとは言えない。

今回は、「精神看護と患者の意思決定」というテーマで講演やシンポジウムが行われた。講演では、治療共同体の考え方と患者の意思決定を支える看護が密接に関連していることがわかった。またシンポジウムでは、私の経験上接する機会の少なかった地域ケアの立場からの意見も聞き、新たにこの問題の奥深さを認識した。日頃からこのことに問題意識をもっていただけに、引き込まれるように話を聞いた。

この有意義な2日間を通して私は、看護者に求められることが患者の意思決定能力・状況・状態を見極める判断力であることを痛感した。

（東京女子医大看護短大 岡田 佳詠）

精神保健活動のご紹介 — 第1回 —

兵庫の一保健所でのデイケアについて

明石保健所でのデイケアは、保健婦が担当し週1回実施されています。9時半から昼食をはさんで約6時間、その日のプログラムに沿って行われます。このデイケアに今年度から参加しての感想を述べたいと思います。一番の人気は料理教室で、普段あまり来ないメンバーも顔を見せます。皆、食事会が楽しみのようです。料理のメニューや材料を事前に話し合い、当日分担して買い出しに行きます。後は、全員エプロンを付け様々に調理します。

最近、外人講師による英会話教室が初めて実施され、好評だったので報告します。自己紹介では緊張した人もいたようですが、ゲームを主にした英会話、レストラン場面での注文など遊びや日常的な内容になると笑いが絶えませんでした。メンバーは思った以上に力がある事を改めて感じました。普段無口だった人も外人講師相手にははっきりとした口調で受け答えしていました。週1回でも通う事自体が大切だといわれるデイケアですが、メンバー個々が興味、関心のあるプログラムを皆で作ることが何よりも大切だと感じました。

(兵庫県立看護大学 北島 謙吾)

〈ご投稿をお待ちしております!〉

さわやかな秋の訪れと共に、学会誌4号の原稿締切り日が近づいてまいりました。編集委員会では、会員の皆様の学会誌への投稿を募集しております。原著論文、調査、事例報告など、何でも結構です。日頃の実践や教育の成果を発表し、多くの人たちと共有する良い機会です。皆様の意欲あふれる原稿をお待ちしております。

原稿の締切り日は10月15日(消印有効)です。

詳しい投稿規定は学会誌に掲載されていますので、そちらをお読み下さい。

もう日があまりございませんが、現在準備中の方はもとより、これからすすめる方もまだまだ間に合います。是非完成させて原稿をお寄せ下さい。原稿送付先は、下記になっております。書留にて郵送してください。

〒150 渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学内
日本精神保健看護学会
編集委員会

事務局だより

○平成6年度会費の納入をお願いいたします。

平成6年度年会費を同封しております振込書でお納めください。

年会費は7,000円平成4年度分から未納の方は21,000円、平成5年度分から未納の方は14,000円となっております。尚、振込書はお一人で一枚ご使用ください。

○学会への連絡・問い合わせは、氏名・会員番号をご記入の上、郵送をお願いいたします。

学術集会関係 → 企画委員会

研修・研究関係 → 教育活動委員会

学会誌関係 → 編集委員会

その他 → 事務局

第5回学術集会・総会のお知らせ

と き：平成7年7月1日(土)・2日(日)

と ころ：北里大学看護学部(神奈川県相模原市)

〈演題募集〉

演題名締切り：平成7年2月末日(抄録締切り3月末日)

申込み・問い合わせ：

〒228 神奈川県相模原市北里2-1-1

北里大学看護学部内 日本精神保健看護学会・学術集会事務局

FAX：0427-78-9428

(電話でのお問い合わせはご遠慮下さい)